

# 第5回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

## 1 日時・会場

平成25年3月6日（水） 14：00～15：30  
厚別区役所2階B会議室

## 2 出席者（敬称略）

倉賀野高行（小学校長会厚別支部）  
東 更司（もみじ台まちづくり会議）  
上島 信一（北海道コカ・コーラボトリング株）  
浦本 幸宏（同上）  
扇 小百合（同上）  
鎌倉 秀幸（厚別区青少年育成委員会）  
押田 純（森林公園町内会）  
新谷 拓朗（厚別区東地区民児童協会）  
牧野 弘志（厚別南まちづくり会議）  
長谷川雄助（厚別東まちづくり会議）  
手塚 純子（厚別区P T A連合会）  
和田 政男（厚別警察署生活安全課）  
小野 征彌（厚別区子ども会連合会）  
松浦 宏（厚別区土木部維持管理課）  
志賀 弘朗 厚別区市民部総務企画課長  
河井 力 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長  
原 慎治 厚別区市民部総務企画課広聴係長

## 3 会議内容

### （1）今年度の振り返りについて

平成24年度の防犯ネットワークの取り組みの概要について司会から説明を行った。  
第2回、第3回、第4回の会議のテーマとその内容、及び防犯講習会についての内容について改めて確認をし、異議はなかった。

### （2）北海道コカ・コーラからの提案

ア 上島執行役員から説明があった。同氏の説明では、現段階で子どもを主役とした事業を検討しているが、具体化に向けて検討中である。次回のネットワーク会議までに、さまざまな意見を聴取しながら具体案を提示していきたい。  
イ ゲーム感覚で楽しく子どもも大人も参加できるような、たとえば「防犯ブザー早

撃ち大会」、「大声コンテスト」、「ガキ大将プロジェクト」等のアイディアも検討しているが、本会議で実施されたアンケートの結果を共有させていただくのと併せ、皆さんとの対話を重ねていく他、実施に向けネットワークの方々にもお手伝い願いたい。また、子どもたちによる「危ないところ探し」も大切な取組みだが「良いところ探し」も自分の街を好きになってもらう取り組みとして検討すべきと思う。

ウ これに対し、参加者からは以下のとおり様々な意見があった。

- ・ もみじ台地区では「ゆきん子フェスティバル」を行なっており、自治連はテンツの設置等を行い、プログラムは業者に任せて毎年行っている。小学生と地域住民の触れ合う機会を設けているとのこと。また2月24日にはもみじ台管理センターで同様に小学生と地域住民が触れ合う会を開催している。夏には商店街と一緒に「子ども盆踊り」も行っている。いずれにしても、小学校の協力体制があれば事業の継続は可能である。これらによって子どもから大人への挨拶が多くなってきている。
- ・ 子ども会としては厚別区内に35単位の子ども会を組織しており、現在3千3百人の会員登録がある。対象は小学校5年生～高校生までとしており、年5回の研修会を行っている。そのうち約1千名がジュニアリーダーとなっており、小学5年生だけでも210人がジュニアリーダーとなっている。市内でも特筆すべき数字である。

「この街大好き」というテーマで年間5回の研修のうち必ず1回は研修を行っており、厚別区の「好きなところ」、「嫌いなところ」を話し合い、壁新聞にして情報の共有化を図っている。平成25年度は「いじめのない楽しい街」をテーマに研修会を行っていく予定である。

また「子どもサミット」という事業も行っており、子どもたちの企画に対し大人が支援しているもので、コカ・コーラの提唱する事業に合致するを考える。

- ・ 地域として子どもの健全育成を図るためには、小学校・中学校からの具体的な要望が欲しい。地域と学校の一体化が必要である。
- ・ 区P連としても数年前防犯マップを各学校に作成してもらったが、それ以上の事業となると各小・中学校のレベルでの対応となるため、特にお願いはしていない。また、区内地域も温度差があるため、一律に同じ事業をお願いすることはできない。
- ・ 厚別区全体で取り組む事業を提案したい。そのためには校長会で提案するだけでは事業の実施は不可能。そのためにも、学校側から地域に対して積極的に協力してもらえるよう具体を示して欲しい。特にまちづくり会議には「何を」、「どう」お願いするか明確にして会議に卸して欲しい。新年度はそれを目標にやっていけばよい。
- ・ コカ・コーラの配送車に貼ってあるステッカーをマグネットに改良し、厚別区でも、防犯の意志のある方の車両に貼ってもらう方法もある。
- ・ とかく、防災・防犯となると若い世代の参加が少ないため参加への動機づけが

必要である。

- ・ ネットワーク会議に参加して他団体の意見を聞き役に立つことが多く、今後自分の町内会でも実施していきたい。しかし、ネットワークが一つの目標を持って何がしかの事業に取り組むためには内部の整理が必要と感じる。
- ・ 今後、子どもの安全・安心の活動に向けて単位町内会そのものの活用を検討して欲しい。自治連の役員を行っている方であれば、様々な情報が入ってくるが、単位町内会レベルではそのような情報も入ってこないため、是非とも小・中学校等から積極的に情報を発信して欲しい。

(3) 平成25年度の活動に向けて

地域と一体で子どもを見守り、虐待を防ぐため

ア 札幌市オレンジリボン地域協力員の拡大について

特に反対の意見もなく25年度に取り組む事業として賛同を得た。

イ 体罰といじめについて

最近メディアで話題になっている案件でもあるため、情報交換等を行うこととなった。

(文責：厚別区総務企画課地域安全担当係)